



オリジナル設計(株)
北日本支店秋田事務所
岸 功

“縁”こそが人生であり自分を変えてくれる

【“点”や“線”ではなく“面”】

「だから、いつも言ってるだろ。“点”や“線”ではなくて“面”で考えろって！」恩師の30年もまえの言葉（何かあれば必ず言う）なのですが、話すときの柔らかな表情と一緒に今でも鮮明に覚えています…というか、ようやくここ数年で実感できるようになりました。単に「視野を広げろ」という意味に捉えておりましたが、個人で広げる視野なんてたかが知れている。その言葉の中には、充実感を持って人生を楽しむための“生き方”も含まれていたのです。

もともとオリジナル設計(株)秋田事務所にアルバイトで使って頂き、当時はよくある話で、いつの間にか社員に。社員数は300名ほどだったと記憶していますが、当時は各地方事務所が「独立」しているような状態でありました。秋田事務所社員以外の面識と云ったら、たまに秋田県に打合せで顔を出される施設本部の数名のみ。さらに、これまた悪い意味での偶然??というのか、多くの社員は数年または10年、20年で転勤と称して全国各地の新天地へ羽ばたかれたのですが、私だけ入社から現在に至るまで秋田事務所勤務…優秀だから手放したくない?いや、そんなことは決してない。

新入社員を除くと、全国でも転勤を経験していないのは私だけでしょう。そんな状況が続いていた中で「視野を…」って言われてもね、限度があります。

【一流に触れる】

少々、業界以外の話に逸れてしまいましたが、そんな日常生活の中で、大きな転機がありました。社内ではもう有名な話なのですが、私の趣味は、海で岩の上から様々な魚を釣る「磯釣り」です。知名度は低いですが、この日本の文化でもある「エサを付けて魚を釣る」という釣りにも全国大会というものが存在しておりまして、毎年



東北地区予選で優勝!

各地で開催される地区予選（100名前後が参加）を勝ち抜いた数名が本戦（全国決勝大会）で技を競う大会です。釣りを知らない方からすれば「たかが魚釣り」なのですが、本戦では経験はもちろんのこと、瞬時の判断力、知識、そして運といった総合力に優れていなければ、決して勝ち上がることはできません。さらに、決勝大会では数社のプレスや業界関係者、スカイパーフェクトTVの取材陣、さらには釣り好きの芸能人やスポーツアスリートの方々が見ている中で行われるため、相当に腹が座っていないと頭が真っ白になり、実力の1%も出すことができなくなります。（試合中に、すぐ後方から50名以上が見ている中での釣り）



多くの取材陣と見学者の前で...

ここで、大会期間中に様々な業種に生きる方々との出会いが、今でも自分の“糧”となっております。中でも全国優勝5回を誇る記録をお持ちの方との時間は有意義なものであり、釣りに限らず、目標達成に必要なことを、部屋で夜な夜な聞きだしたものです。

- ①努力する方向を考える。漠然と努力しても結果は出ない。
- ②努力の過程のプロセスが評価されるのではない。結果が全て。
- ③常に何が一番効果的・効率的かを考える。
- ④日頃の鍛錬によるスキルアップが大舞台での自信に必ずや繋がる。

そして最後に・・・「情熱を持ち続けること（維持）は立派な才能である」という言葉。いま、様々な制度や法律が変わり、激動の時代を迎えつつある我が業界にもピタッと当てはまる言葉ですよ。どのような業界であっても、一流に触れるということはメリットになるものだと実感しております。

【人生は“縁”である】

さて、趣味の世界では“点”から“面”にようやく25年もかかってメダタク移行できた訳ではありますが、程なくして仕事でも大きな転機が直ぐに訪れました。そのころお会いした本社のN部長（今は経営者ですが）と、妙な縁で「管理技術者」と「業務責任者」の立場になり、経験した事の無い困難な業務をやることに。この部長との出会いが、また僕の人生に大きく影響する訳なんです。先ほどの全国大会の話と同様に、この方も間違いなく“一流”でした。

ここから自分の中の何かが「メキメキ」と音を立てて変わって行ったと思います。まず、当時はRC CMの「上水道および工業用水道部門」と「下水道部門」「一級土木施工管理技士」を保有していましたが、「管理技術者もできるし…別に」という閉鎖的な考えから、技術士補すら持っていませんでした。ここで、N部長からお酒の席で“一流”の話の伺い、目を輝かせながら（たぶん輝いていた）「来年技術士補、再来年技術士を

必ず取得します！」って豪語した記憶があります。残念ながら1発で夢は叶いませんでしたが、3度目の挑戦で合格。合格発表の日は、早朝から様々な方々から「どうだった？」「番号ある？」と電話があり…泣きそうな顔で事務所へ行きパソコンを立ち上げ…涙しました。(自慢ではないですが、未だに頑固にガラケーなのでPDFが見れない)

【転機のアとは・・・】

技術士を取得し、水コン協の幹事などもそうなのですが、下水道協会発刊のマニュアル改訂WGに参画するなど、今度は業界内での“一流”と出会う機会が増えました。一番強烈な印象を受けたのは、某マニュアル改訂WGの中で、同年代(同じ歳?)の某社の方。まあまあ…視野の広さ、視点、瞬時の判断力の凄さはもちろんのこと、何よりは全ての委員の先生も瞬時に頷いてしまうような「話しっぷり」と「書きっぷり」。そして人望の厚さと偉ぶらない暖かい人柄。「ああ、恐らくはこれが業界のトップたる人なんだな」と衝撃的な印象と受けたと同時に、嬉しさが込み上げてきたものです。目指すところが見えたので…。

【夢のある業界 ～仕事そのものが社会貢献～】

社会情勢や気候変動が大きく変化し、日本は多くの社会的課題を抱えています。具体的には、地球温暖化を要因とするこれまでに経験したことのないような浸水被害の頻発、少子高齢化に伴う財政事情の悪化、過疎化の進展など。

我々水コン協が関わる下水道事業は、これらの課題の克服を実現することが可能です。一般論でいう将来的な理想社会とは、豊かな自然環境、少ない自然災害、安定した雇用と豊かな暮らし…といった事が挙げられます。

それに対し、下水道が担う役割は…

○豊かな自然環境の創出

- ・水環境の保全。健全な水循環系の構築。合流式下水道の改善。

○自然災害リスクの緩和

- ・浸水被害の軽減。地震対策(BCP含む)の推進。

○地域活性化と雇用創出

- ・資源、エネルギー循環の形成による新たな雇用の創出。
- ・良好な水辺空間や自然環境を保全・創出し、観光振興に貢献する。
- ・良好な生活空間の確保、潤いのある空間を創出し、若者を含めた定住を促進。

このように、下水道は持続可能な社会の創造のために不可欠なシステムの主要部を担っているのです。

夢のある仕事ですね…と偉そうに書きつつ、僕も数年前に気が付いたのですが。

社は違えども、我々の業界は時には助け合い、時にはお互いを尊敬しつつ…そうして

皆さんで成長しながら日本の社会を支えて行くのが僕の理想です。
今後ともよろしくお願いします。